

(学年) 第1学年、(教科・科目) 芸術科・書道 I

個別学習

(単元) 「耕心」～唐の四大家の表現を用いて～

(本時のねらい)

- ・唐の四大家の書風に基づいた作品制作ができています。(知識・技能)
- ・自身の考えが効果的に表れる書風の古典を選択し、表現方法を工夫している。(思考・判断・表現)
- ・題材や、楷書の多様な表現に興味を持ち、主体的に表現活動に取り組もうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

(ICT活用方法)

プレゼンテーションソフトの資料をテレビモニターで映し出し、同じ内容を一人一台端末(タブレット)でも確認させることによって、生徒それぞれのタイミングでスライドを見返すことができ、主体的かつ誰一人取り残さない授業の実現を目指す。スライドデータには、筆の動きを何度も確認できる示範動画や、参考として見ることができる手本の写真を貼り付ける等している。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入 5分	・これまでの学習を振り返り、本時の活動内容・目標を確認する。	・前時のワークシートを返却し、一人一台端末を起動させる。	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめた「耕心」の意味や、イメージを共有する。 ・唐の四大家それぞれの書風を復習する。 ・唐の四大家の書風から、「耕心」に合う表現を考える。 ・作品を制作する。 ・本時の作品の振り返 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えた「耕心」の意味やイメージを、隣同士で共有させる。 ※4人のグループを作らせる。 ・グループで、唐の四大家の書風を復習させる。 ・書の表現効果について考えさせ、「耕心」のイメージに合う古典を選択させる。 ・古典の書風を基盤に、意図に合う表現をさせる。 ・創作の基盤にした古典 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトのデータをテレビモニターに映し出し、同じ内容を一人一台端末でも確認させる。 ・書風の復習が終わり次第、プレゼンテーションソフトで答えを確認させる。 ・テレビモニターで示範動画を流し、唐の四大家の書風のポイントを確認させる。 ・各々で示範動画や、手本を確認させる。(手本を見ながら書く際

	りをする。	の特徴が表現できているか、「耕心」に対するイメージが反映されているか等、振り返りをさせる。 ・完成作品を提出させる。 ・片付けをさせる。	は、キーボードを外しスライドショーモードで。)
まとめ 10分	・全体で作品を鑑賞しながら、本時の学習内容を振り返る。 ・次時予告を聞く。	・自己表現の大切さや、臨書の意義等について理解させる。学校生活において校訓を意識させる。 ・次時内容を確認させる。	

(授業の様子)

※すべて、使用したプレゼンテーションソフトの一部を切り取ったものである。

これまで…
唐の四大家の楷書を臨書してきました。

学習した様々な表現や書風を用いて、
今日は…ある言葉を書きます！

古典臨書 → 創作へ

④顔氏家廟碑 (顔真卿)


唐故
大行通議
大夫守尚書
左右丞同正人
柱國荊州
王友柱國


〈特徴〉
・向勢
・垂頭燕尾

どっしりした線
力強い
おおらが



顔氏家廟碑 風





古典の表現を創作に活かす！

本日…「耕心」を1枚提出！

目標
・自分が抱く「耕心」のイメージや思いを大切に、
→思いや考えが表れやすい古風を選ぶ。
・古典の特徴や、用筆を理解したうえで書く。

↑プレゼンテーションソフト内に
添付した示範動画

↑プレゼンテーションソフトをスライドショー
モードにし、キーボードを外して
使用させたデータ手本

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

生徒は、授業内容をテレビモニターで確認しながら、手元の一人一台端末でも繰り返し確認していた。グループワークや作品制作の際には、過去のスライドを振り返る姿や示範動画を再生する姿、またデータ手本を活用する姿が見受けられたので、能力の差に関係なく、生徒の主体性を引き出しながら、誰一人取り残さない授業の実現ができたと感じる。

また、生徒自身の思いや考えを言葉で伝え合う活動も増やしていきたいと考えている。ICT 機器を用いて、有名な書家の作品を鑑賞し意見交換をさせたり、自分自身の作品を授

207 芸_書道 I_3_302 個別_「耕心」～唐の四大家の表現を用いて～

業の度に写真で記録しておき、後に友人同士で振り返りをしたりと、鑑賞活動に力を入れることで芸術を愛好する心や、自身や他者を認め合える心を育てたいと考えている。